

まちの日記帳



町内小中学校で 国際交流

11/23



今年で9回目を迎える「海外研究員との交流事業・「積丹」が各小・中学校で行われ、アメリカ・ロシア・パラグアイなど8カ国13人の研修生と児童・生徒が思い出に残る交流のひと時を過ごしました。



各学校では、歓迎のあいさつや自己紹介が行われた後、和紙の折染やもちつき体験など日本の伝統的な文化を披露したり、研修生の自國での生活の様子や遊びを写真を使って紹介したりなど、言葉の壁を越えて文化の違いについての貴重な学習が行われました。

今年も笑顔でふれあい
—「食改」が老人世帯に
「手作り弁当」の配給サービス—

11/28



▲12/13 びくに保育所

園児全員の開会の言葉で始まった発表会は、工夫を凝らした劇や遊戯、手遊びなど小さな体をいっぱいの笑顔で表現し、かわいい衣裳がより一層会場を盛り上げました。成長した我が子の姿を見ようと会場いっぱいに詰めかけた家族からは、一幕ごとに大きな拍手と声援が送られました。



▲11/29 みなと保育所

びくに・みなと保育所で
生活発表会

11/29 12/13

税を考える週間
—納税意識の向上に役立てて—

12/2



この日は、播磨修一青年部長が各小学校をまわり1年生、6年生にそれぞれ手渡しました。

余市地方法人会積丹地区会青年部と町納税貯蓄組合連合会から12月2日に町内小学校1年生13人に防犯ブザーと6年生12人に和英辞典等が贈られました。

これは、納税意識の向上を目的に両団体の活動の一環として毎年行っているもので、社会の仕組みや税金のことについて考えてもらいたいとの願いをこめているものです。

20

勝利へアタック

12/4



【男女混合】

優勝	チーム長谷川
準優勝	F B・オバラチーム
準優勝	チームどんだり
第3位	チーム石田

大会には13チーム55人（男女混合の部8チーム43人、女子の部3チーム12人）が参加し、優勝を目指し熱戦が繰り広げられました。なお、大会の結果は次のとおりです。

B & G 財団会長杯争奪ソフトバレーボール大会がB & G海洋センターで行われました。生涯スポーツの一環として健康づくりや仲間づくりを目的に実施されてきたこの事業は今回で17回目を迎えるました。

やさしい介護教室 —認知症について理解を深めよ—

12/5



「余市町認知症の人を支える家族の会」を招き、ビデオや講話、経験談を聞きながら、どのように理解を得たらいいのか、家族の対応や地域でのサポートをどのようにすればいいのかなどを学びました。

初期の認知症について家族や周囲の人の見守りについて学ぶことを目的とした「やさしい介護教室」に47人が参加して総合文化センターで開催されました。

いつまでもお元気で

12/7.9



参加した方の中には、実際に介護をしている人や町外の施設で働く人などもいて、涙ぐむ姿も見られるなど認知症に対する心の高さが伺えました。

アメリカ婦人会（戸来和子会長）は、2日間の日程でエイジングステーションを慰問し、施設の入所者に歌や踊りを披露しました。



妊娠期の大切な食事を学習 —マタニティ教室—

12/9



妊娠期の食生活について学ぶことを目的として講師に神山悦子栄養士（余市町）を招き講話や調理実習を行いました。この日は町内の妊婦9名のうち3名が参加し、基本的な妊娠期における食習慣について学習したほか、調理実習として「きのこたっぷりみそ汁」や「ネバネバ納豆の春巻き」などを作りました。参加者からは、「これならできる」と、「他にアレンジしてもおいしそう。」「アレンジしてもらおう。」などの声も聞かれ、和氣あいあいとした中での妊婦同士の交流でした。